

正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申しあげます（2019年4月5日）

■第1版 第1刷（2018年11月10日発行）の修正・更新箇所

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
第5章-2 骨盤帯痛に対する介入					
158	上から17行目	直接的に動作を変させられない場合は	直接的に動作を変化させられない場合は		19/04/05
165	図19②	〔下位胸椎、腰椎〕屈曲を促す	〔胸椎〕屈曲を促す	※1を参照	19/04/05
166	図19 説明文1行目	骨盤の前傾を促すことで、下位胸椎と腰椎の屈曲を促す	骨盤の前傾を促すことで、下位胸椎と腰椎の伸展を促す	※1を参照	19/04/05
165	図20b	〔下位胸椎、胸椎〕屈曲させる	〔胸椎〕屈曲させる	※2を参照	19/04/05
166	図20 説明文2行目	骨盤の前傾を促すことで、下位胸椎と腰椎の屈曲を促す	骨盤の前傾を促すことで、下位胸椎と腰椎の伸展を促す		19/04/05
166	図23 説明文	方側への荷重を促したい場合は、	片側への荷重を促したい場合は、		19/04/05
第5章-3 Motor control障害に対する介入					
170	上から17行目	立位から腰椎中間位を保つながら	立位から腰椎中間位を保ちながら		19/04/05
179	19行目	③抵抗をかけてその場で保持（図16d）	③補助をしながら上肢挙上（図16d）		19/04/05
182	3~6行目	①四つ這い位から、腰椎は中間位に保ったまま、手の位置は変えずに殿部を踵に近づけるように（正座をするように）動いていく（図21）。 ②四つ這い位から、胸椎を動かさないように保ったまま、骨盤を前傾・後傾を行う（図22）。	①四つ這い位から、腰椎は中間位に保ったまま、手の位置は変えずに殿部を踵に近づけるように（正座をするように）動いていく（図21, 22）。 ②四つ這い位から、胸椎を動かさないように保ったまま、骨盤の前傾・後傾を行う。		19/04/05
プロフィール					
244	16行目	認知理学療法士（運動器）	認定理学療法士（運動器）		18/11/13

図表

※1



※2

